

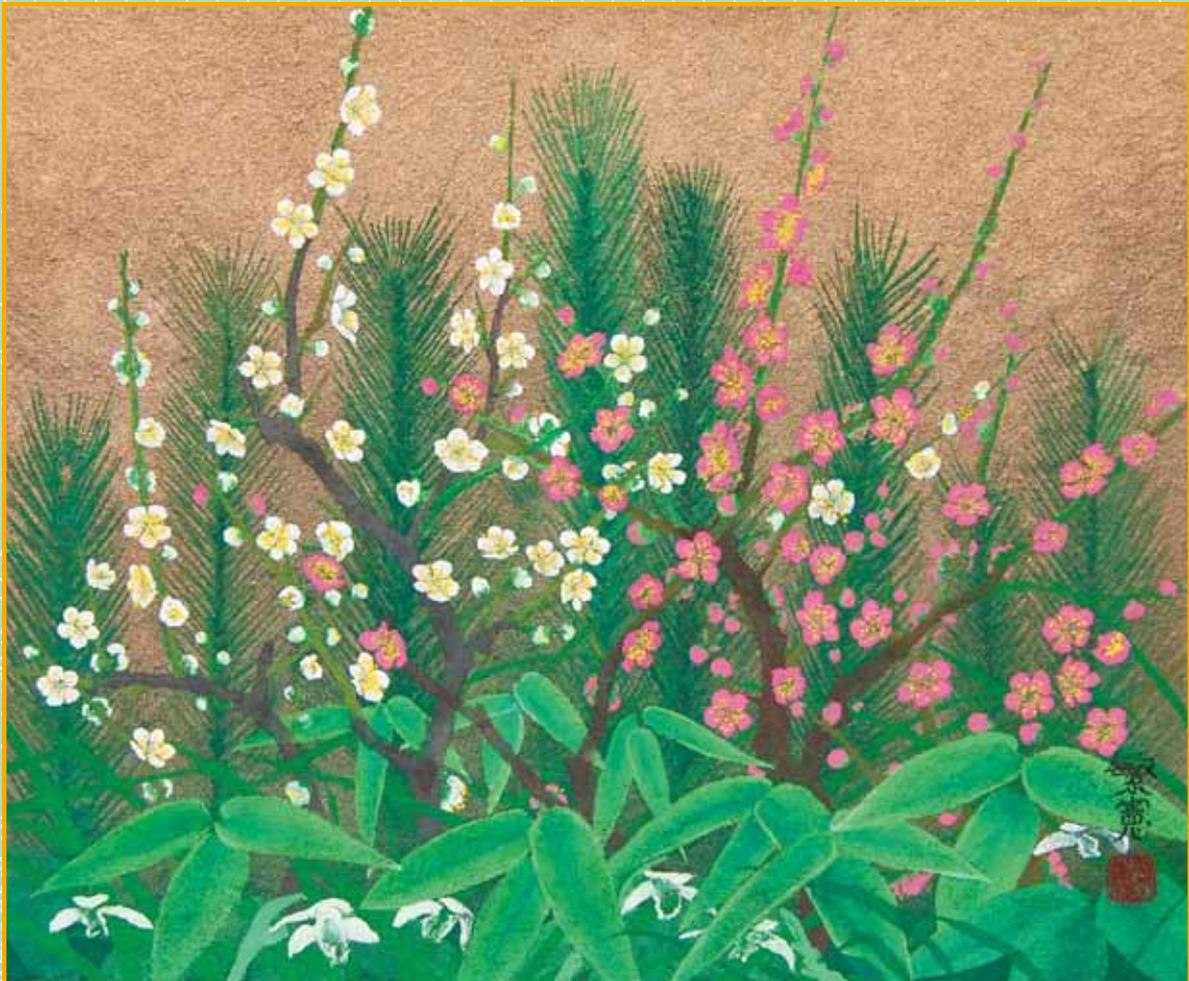
TOYAMA VICTIM SUPPORT CENTER



公益社団法人

とやま被害者支援センターだより

2016. 12. 31 発行 第23号



岡田繁憲「花盛り」

目

次

特集

とやま被害者支援センター設立10周年記念式典・記念行事 1～5

活動報告 6

センター設立10周年記念 式典・イベント和やかに

とやま被害者支援センターの設立10周年を記念する式典と関連行事「講演会&コンサート」が、「犯罪被害者週間」（11月25日～12月1日）に併せて11月26日、富山市のオクスカナルパークホテル富山で開かれました。一般市民のみなさん、関係者合わせて約380人が出席しました。式典後、第2部として教育評論家で法政大学教授の尾木直樹さんの講演とシンガー・ソングライター、Tomomi（ともみ）さんのコンサートがあり、会場は終始和やかな雰囲気になりました。【2頁～5頁に関連記事掲載】

設立10周年の節目にあたって決意を述べる
四十物理事長＝オクスカナルパークホテル富山



式典では、初めに四十物直之当センター理事長があいさつ。平成18年9月30日にセンターの設立総会が開かれた後の活動の経緯に触れるとともに、センターの運営にさまざまな面から協力があった関係者に謝意を述べ、「県の犯罪被害者等支援条例制定の動きなど法整備が進められていることなどを生かしつつ、今後も支援の質向上を図っていきます」と10周年を迎えた決意を披露しました。

続いて石井隆一富山県知事と白井利明富山県警察本部長から祝辞をいただきました。石井知事は「センターがこれまで犯罪被害者等に寄り添うきめ細かな支援を続けてこられたことに敬意と感謝を表し、10周年を機会に支援の輪が県内一円に広がるよう県としても努力します」。また、白井本部長は「社会全体で被害者等を支えていく機運の醸成が大切で、今後もセンターとの連携をさらに深めたい」などとそれぞれ述べられました。このほか、来賓として水沼祐治富山地方検察庁検事正、奥野詠子富山県議会議員（自民党県議会「犯罪被害者等支援条例」プロジェクトチーム）が紹介されました。当センター側からは、中尾哲雄初代理事長、翠田章男前理事長も出席しました。

また、10周年を記念する特別表彰があり、県警

察から当センターに「永年功労団体表彰」が、県警察と当センターから大久保恵美子さん（全国被害者支援センター顧問・当センター理事）に「永年協力者表彰」が贈られました。

また、「命の大切さを学ぶ教室作文コンクール」の優秀作品表彰式と朗読【2～3頁で詳報】があり、その後、中尾初代理事長が10年を振り返り、「被害者等の支援だけにとどまらず、加害者を生まない社会を作り出す努力も大切です」と訴えました。

講演会とコンサートの終了後、牧田和樹当センター副理事長が「おかげさまで10周年を迎えることができました。これからもみなさんのお力添えを賜りたい」と挨拶しました。



祝辞を述べる石井知事（上）と白井本部長



10年を振り返ってあいさつする中尾初代理事長



特別表彰を受ける大久保さん（左）

最優秀賞に荒田さん(中学)佐伯さん(高校) ～平成28年度命の大切さを学ぶ教室作文コンクール～

平成28年度の「命の大切さを学ぶ教室」作文コンクール成績優秀者の表彰と朗読が式典に続いて行われました。最優秀賞には中学生の部で荒田明香里さん(入善西中学校2年)、高校生の部で佐伯亜朱紗さん(呉羽高等学校1年)がそれぞれ選ばれたほか、優秀賞、佳作には下記のみなさんが入賞しました。

「命の大切さを学ぶ教室」は、当センターと富山県警察本部が共催で進めている事業で、犯罪被害者やその遺族が講師を務め、県内の中学校、高校、

大学、企業などで講演活動を行っています。被害者が受けた痛み、家族の絆、命の尊厳などを訴えることによって、被害者への配慮、被害者支援への理解が醸成されるよう目指しています。

これまで、飲酒ひき逃げ事故で最愛の家族を失った女性や、妻が無謀運転の車に衝突されて意識不明の重体となり、長い間寝たきりの状態が続いた男性が講師を務め、被害者の悲惨さや被害者の置かれた理不尽さなどを訴えてきました。

●中学生の部

入賞	学校名	氏名	作品名
最優秀賞	入善町立入善西中学校2年	あらたあかり 荒田明香里	命とつながりの大切さ
優秀賞	入善町立入善西中学校2年	はせりか 長谷梨華	命のつながり
優秀賞	富山市立三成中学校3年	とがしかなこ 藤 榎 夏奈子	命の重み
佳作	氷見市立南部中学校2年	とがしなほこ 富 榎 七歩子	命の大切さ
佳作	高岡市立高陵中学校2年	おやまあい 尾山 亜衣	被害者から学ぶ
佳作	氷見市立西條中学校2年	よかわけん 余 川 健人	命の大切さについて
佳作	南砺市立福光中学校2年	みやかわてん 宮 川 天侑雲	生きていること

●高校生の部

入賞	学校名	氏名	作品名
最優秀賞	富山県立呉羽高等学校1年	さいきあずさ 佐伯 亜朱紗	講演を聞いて
優秀賞	高岡第一高等学校2年	しおたにゆうた 塩谷 優太	命の授業を受けて
優秀賞	富山県立呉羽高等学校1年	いつかいちもえ 五日市 萌	「今を生きる」
佳作	富山県立呉羽高等学校1年	いなだゆかり 稲田 ゆかり	大切な人を大切にすること
佳作	高岡第一高等学校2年	たにくちきこ 谷口 紀子	遺族の方のお話を聞いて
佳作	高岡第一高等学校2年	うらだま 浦田 真央	命の講演会
佳作	富山県立小杉高等学校1年	さいとけん 齋本 研 アレクサンドル	「命を大切にすること」



中学生の部の表彰



高校生の部の表彰

最優秀作品紹介

中学生の部 最優秀賞

「命とつながりの大切さ」 入善町立入善西中学校2年 荒田 明香里



私は「まばたきで『あいしています』～卷子の言霊～」を聴講して、普段の生活や命がどれだけ大切なものを学びました。

突然、自分が植物状態になってしまった卷子さんの気持ちは、はかり知れないものだろうと思います。もしも、私がそんな状態になったら、「動きたくても動けない」「話したくても話せない」という状況に絶望してしまうと思います。卷子さんは、やり切れない思いで閉じ込められているような感覚だったのだろうと思うと、胸が締め付けられました。

そこで、夫の幸郎さんの存在はとても大きなものだったと思います。私は「二人三脚」という言葉が出てきたことが印象に残っています。毎日病院に行き、卷子さんに声を掛ける姿にとても心が温かくなりました。会話の練習のときも、一人ではなく二人でできることをやろうという考えに明るい気持ちになりました。どちらも辛い状態なのに、決して絶望せず悲観せず前に進んでいくということは、とても私にはできません。今の状況を受け入れ、一歩ずつでも進んでいくことが大事なのだと感じました。

私が、この講演で一番印象に残っているのは、卷子さんが「ころしてください」と言ったことです。私は最初聞いた時は、自分の植物状態が辛くなって言ったのだと思いました。しかし、それは違いました。卷子さんは、幸郎さんのために想って言ったのです。自分より相手を想う優しさに、涙が出そうになりました。その時私は「命は本当にかけがえのないものだ」と強く思いました。人と人とのつながりの美しさに感動しました。

命の大切さ、人と人とのつながりの大切さというのは、実際このような状況になってみないと分からない、気づけないものだと思います。しかし、この講演で少し分かったような気がします。諦めず、人と人とでつながって精一杯生きていくということが、命を輝かせ、大切にすることにつながるのではないかと思います。私は、これから日々当たり前のように過ごせることに感謝し、精一杯生きていきます。そして、自分の命を輝かせたいです。

高校生の部 最優秀賞

「講演を聞いて」 富山県立呉羽高等学校1年 佐伯 亜朱紗



「もう夫が亡くなる前のように笑えるようになることは、ないと思います」。

なんという悲しい言葉でしょうか。これは講演をしてくださった方の言葉ですが、今でも私はこの言葉が耳によみがえってきます。

初めて、お話されるIさん（講師）を見たとき、事故などとは無縁の、私たちとなら変わらない方のような印象でした。お話を聞いて初めて、私はこの方の置かれた現実に驚き、話をされるつらさが身にしみるような気がしました。私たちが想像もつかないほどのつらい思いをされていながら、それを私たちに感じ取らせないまでになるには、どれほどの苦しみを飲み込み、乗り越えてこられたのでしょうか。自分の身に置き換えて想像すると、今でも私自身の心がつらくなってきます。Iさんが言われた「以前のように笑えることは、ない」という言葉の意味は、表情で「笑顔」になることができても、心の底から笑顔になることはできないということだと分かりました。

また、Iさんは「加害者二人はまったく反省しておらず、それどころか罪のなすりあいをしていたんです」と憤るように言われました。加害者二人がまったく反省していなかったことに、私は衝撃を受けました。日頃から、私たちは学校でも家庭でも、悪いことをしたときはしっかりと反省し、次に生かすことで成長できるのだと教えられてきました。それなのに、人の命を奪うという重大な過失を認めず、責任転嫁をしようとした加害者のことを本当に腹立たしく思います。このような人がいるから、被害者家族の方の苦しみは倍以上になるのだと思います。

けれども、もしその苦しみの中に差し込む光があるとすれば、それは周りにいる家族や、友人の支えだと思えます。不安な気持ちや悩む事を根本から解決することはできなくとも、話を聞いてあげるだけ、そばに寄り添うだけ、気にかけるだけ、こうしたほんの小さな一つだけの心遣いが、救いになると思うのです。

私の父はたびたび海外出張へ行くことがあります。日本とは違う環境や言語の中での仕事。帰ってきててもストレスや疲れが残ったままの状態で、再び行かなければならないこともあります。そんな父に、私は必ず「いってらっしゃい」と声をかけます。時間があるときは携帯電話で連絡を取ることもあります。家に帰るまで「一人」でいるよりも、父は少しでも心に安らぎを感じることができていると思います。私自身も、父とのコミュニケーションを通して安心を得ることができます。

このように小さい事であっても、私たちが互いに心遣いすることが必要です。小さな事が集まればそれは大きな力になり、支えとなると思います。だからこそ私は、日頃から人を思いやる心を持ち、相手の受け取り方や感じ方を考えて言葉を選び、人がつらい気持ちになっているときに優しい言葉をかけたり、暖かく接したりする心がけたいと思います。そして、どんなことがあったとしても、加害者二人のような、人の気持ちを踏みにじるような心を持たないようにしたいと思います。

私たちが、お互いに心遣いをし、支え合うためには、他人の気持ちを分かろうとする思いが大切であり、想像する力が重要だと思えます。そして世の中の人々が、みなこうした思いや想像力を持つことができたなら、事故や事件の被害者はきっと減っていくのではないのでしょうか。Iさんのお話を聞いた後、私は何度も心の中で願いをつぶやきました。

「届け。届け。私の願い。世の中の誰もが、この方のようなつらい経験をしなくても済むように。人々が互いに相手の痛みを想像し、優しい心がつながりあう世の中になるように」。Iさんは、講演のたびに思い出したくないことを思い出し、つらい気持ちでお話されるのだと思います。それでも私たちに話して下さったことに感謝の気持ちでいっぱいです。Iさんの思いを無駄にしないよう、私自身、小さな心遣い、支え合いを大切に、それを周囲の人たちに広げていけたら、と思います。

尾木直樹さん講演要旨

命を尊ぶ社会をめざして

富山県にはこれまで何度か足を運んでいます、北陸新幹線開通後の富山駅に降りたのは初めてです。まだ駅の南北がつながっておらず不便を感じました。県内での講演や相談活動の体験から言いますと、富山は大変教育に熱心なところだと思っています。



きょうの講演テーマ「命を尊ぶ社会を目指して」は、私にとって大変重いものです。平成28年1月15日、長野県軽井沢町で起きたスキーバス事故で私のゼミ学生10人が事故に巻き込まれ、4人が亡くなり6人が大きなけがを負いました。私の人生で初めてともいえる大きな衝撃でした。私はこれまで自分の身内をがんで失い、命の大切さについては理解していたつもりでしたが、その重みをこれほど強く感じたことはありません。



ゼミ生が事故に遭う前、彼らは私の誕生日を祝ってくれました。その時手渡されたバースデーケーキの重さを、今もひしひしと感じています。事故からもうすぐ1年が経ちメディアからは私に対する取材依頼が相次いでいますが、私自身1年経っても前に進むことができないため断っています。

■ 肉体、精神の苦しみ今も

命は取り止めたもののけがをしたゼミ生も先の見通しが立たない状況です。「命に別状はない」とされましたが、再手術やリハビリで一年以上かかっても想像を絶する肉体的、精神的苦しみがのしかかっています。「痛いという感覚が分からなくなった」ともらずゼミ生もいます。私自身も事故への怒りから一時期、精神的に不安定になり、前東京都知事の問題な

どに過敏に反応してブログが炎上したこともありました。

事故直後6日間で、亡くなったゼミ生の通夜と葬儀にそれぞれ4回参列しました。中には葬儀に2千人を超える参列者があり、あらためて亡くなったゼミ生の生きてきた全貌をうかがうことができました。ひとつの命には無数の人とのつながりがあり、そのつながりの中で私たちが生きているのだと知らされました。

事故を反省に、安全を守るための道路交通法改正が進められようとしています。事故が起きた背景に規制緩和の広がりがあることは明らかです。貸し切りバス会社が格段に増えたのに安全性を検査する国の職員数は以前のままです。今回の事故でバスに誰が乗っていたのかさえ把握していないバス会社の競争原理優先という責任感のなさが明るみに出



ましたが、それははじめを許容しかねない一部の加害者側関係者の姿勢にも似ていると思います。

■ 取り返すことができぬ命

東京電力福島第一原発事故で、福島県から横浜市へ避難した中学1年生がいじめが原因で不登校になったことが問題になっています。その中学生は大震災で多くの人が亡くなったことから、つらいけど死なずに生きようと決めたと訴えています。命は取り返すことができない大切なものです。親子・家族関係でも相手のことを尊重し、あるがままに心で受け止めながら命の重さをはぐくむ関係を築いていくべきではないでしょうか。

Tomomiさんコンサート

伸びやかな歌声で魅了

尾木さんの講演に続いて、シンガー・ソングライター、Tomomiさんのコンサートが開かれました。日ごろから「お父さん」と呼び慕っている高原兄さんの作曲で、曲の一部が北陸新幹線黒部宇奈月温泉駅の発車音にもなっている『煌(きらめき)～水の都から～』などを熱唱。優しく伸びやかな歌声に、みなさんは聴き入っていました。

コンサートの合間には、黒部市内の牧場でヤギの乳からバターを作っていることや、来年には沢山の子ヤギが誕生し、日本一の数のヤギ牧場になりそうだという話も披露され、会場を沸かせていました。



会場にはTomomiさんの伸びやかな歌声が響いた

アンケート集計

当センターでは今後の支援活動の充実のために、出席者の皆さんに「アンケート」をお願いしました。計185人の方々のご協力をいただきました。

<アンケート結果>

1 性別・年代・職業は

男性…74人 女性…111人

10代…34人 20代…22人 30代…12人 40代…23人 50代…28人 60代…37人

70代以上…29人 学生…10人 有職者…119人 無職・その他…53人

2 この催しを何で知りましたか

関係・所属団体から…134人 ポスター…20人 その他(知人、交番情報など)…30人

3 「とやま被害者支援センター」という名前を聞いたことがありますか

ある…144人 ない…45人

4 「とやま被害者支援センター」がどんな活動をしているか知っていますか

知っている…119人 知らない…65人

5 感想(抜粋)

- ・尾木ママの講演を聞いて、改めて命について考えさせられました。子どもにもぜひ聞いてほしい内容でした。
- ・尾木さんの「一つの命はいくつもの命につながっている」との言葉が印象的だった。
- ・中学生、高校生の作文朗読では感動し涙が出そうになりました。不幸な被害者を出さないよう一層の努力、正しい生き方の心を育てていくことが必要だと思いました。
- ・中高生の感想文、心に響きました。若い人たちに命について考えてもらうことはとても大事だと思います。
- ・被害者や被害者家族になって初めて分かることを知りました。命の重さ尊さをあらためて学ぶ良い機会になりました。

- ・Tomomiさんのいやされる歌声は素敵でした。ずっと富山で頑張ってね。



会場みなさんに「ワンコイン募金」をお願いしたところ、計**4万462円**の支援が寄せられました。
ありがとうございました。

活動報告

研修会

● 継続研修

- 8月23日 リスニング技術「電話・面接相談」(対応の基本とロールプレイ)
講師：密田博子氏（臨床心理士・当センター理事）
- 9月20日 関連施設見学
富山刑務所
- 10月18日 リスニング技術「電話・面接相談の実際」
講師：藤田きよ子氏
(公益社団法人全国被害者支援ネットワーク認定コーディネーター千葉犯罪被害者支援センター)



密田博子氏を迎えての研修会

● 事例検討会

- スーパーバイザー：大久保恵美子氏
(公益社団法人全国被害者支援ネットワーク顧問・当センター理事)
- 9月 1日
- 10月 6日
- 12月 1日



藤田きよ子氏を迎えての研修会

● 県外研修

- 9月12日～16日 直接的支援実地研修(被害者支援都民センター)
- 9月30日 全国犯罪被害者支援フォーラム2016(東京) 5名参加
- 10月 1日～2日 平成28年度秋期全国研修会(東京) 4名参加
- 11月 6日 ひょうご被害者支援センターシンポジウム(神戸)

「山形マット死事件」のご遺族児玉昭平さんの講演、そして「神戸連続児童殺傷事件」のご遺族の土師守さん、お二人の事件直後から現在に至るまでの貴重なお話を聴くことができました。「100人100用のやり方で、寄り添ったサポートをして欲しい」と最後に言われた言葉…しっかり胸に刻んでいきたいと思いました。(数下)

- 11月30日 自助グループ運営・連絡会議(東京)
- 12月17日 犯罪被害者支援弁護士フォーラムシンポジウム(東京)



事例検討会

講演活動 「命の大切さを学ぶ教室」

- 9月29日 高岡第一高等学校 740人

広報・啓発活動

- 9月27日 富山地方検察庁との定期連絡会(富山地方検察庁)
- 10月 3日 地域安全大会(教育文化会館)
- 10月18日 保護司研修会(保護観察所)
- 11月 2日 人身安全関連事案対応に関する意見交換会(警察本部)
- 11月16日 暴力追放富山県民大会(アイザック小杉文化ホール)
- 11月22日 富山地方検察庁との定期連絡会(とやま被害者支援センター)
- 11月25日 犯罪被害者週間キャンペーン(JR富山駅前、JR高岡駅前)



JR富山駅前でのキャンペーン

自助グループ支援活動

- 8月26日 9月23日 10月28日 12月10日

あなたの優しさを待っています...

私たちの活動は、皆様からの会費・ご寄付等に支えられています。当センターの支援活動は全て無料で行われます。そのためには経費が必要になります。皆様のご支援・ご協力をよろしく申し上げます。

賛助会員・ご寄付のお願い

● 賛助会員とは

当センターの目的に賛同し、事業を財政面で支援する法人・団体または個人です。

● 年会費

- ◎法人・団体会員 1口 10,000円
- ◎個人会員 1口 2,000円
(口数に制限はありません)

● ご入金の方法

◎当センター発行の「払込取扱票」にご記入の上、お近くの郵便局でご入金願います。「払込取扱票」については、事務局(076-413-7820)にお問い合わせください。

◎また、銀行振込みの場合は、**北陸銀行北電ビル出張所(普) 5025520**
公益社団法人とやま被害者支援センター
にお願いします。(振込み手数料を差引いて入金してください)

ホンデリングにご協力を

ホンデリングという寄付をご存じでしょうか。皆様から読み終えた本などをご寄贈いただき、その売却代金をとやま被害者支援センターへのご寄付として頂戴し、センターの活動に役立てるというプロジェクトです。読み終えた本やCD・DVD・ゲームソフトなどがあれば、当センターにお持ちくださるか、ご連絡いただければ引き取りに伺います。皆様のご協力をお願いいたします。

イオン黄色いレシートキャンペーンにご協力を

毎月11日にイオン高岡南店でお買い物され、黄色のレシートを店内に設置された投函コーナーにある当センターのボックスに入れていただきますと、レシート合計金額の1%相当額の物品がイオンリテール(株)様から当センターに寄贈されます。それを支援活動等の事務用品類などに有効活用させていただきますので、皆様のご協力をお願いします。



無料法律相談

- ◆毎月最終水曜日に、とやま被害者支援センター面接室において、当番弁護士が相談に当たります。
- ◆相談は予約制で、犯罪被害(身体犯)に限ります。

詳しくは当センターへお問い合わせください。

TEL 076-413-7830

寄付金自動販売機の設置にご協力を

事業所等に寄付金付の自動販売機を置いていただけませんか。皆様方のご協力のもと、自販機メーカーと契約し、売上代金の一部(1本につき1円程度)を寄付として頂戴するものです。

現在、県警や自動車学校等事業所に設置の41台の自販機を寄付金付き自販機とさせていただきます。各事業所の皆様方には是非ご検討してみてください。

おかしけのり
岡田繁憲氏

- 1950年 富山県南砺市(福野町)に生まれる
- 1976年 文化勲章受章者の故奥田元宋氏に師事 日展初入選
- 1985年 日展特選 日展会友
- 1989年 セントラル日本画大賞展に招待出品
- 1990年 日展特選 文化庁現代美術選抜展出品 とやま賞受賞
- 1991・1994年 「森の譜」・「緑陰譜」内閣官邸借上
- 1996年 富山県民会館美術館にて個展
- 2001年 北日本美術大賞展にて特別賞受賞
- 2002年 となみ野展にて部門賞受賞 「森の鳥」新首相官邸借上
- 2003年 日展審査員
- 2004年 日展会員 となみ野展にて部門賞受賞
- 2007年 高岡市美術館にて「日本画の最前線」展
- 2010年 南砺市福光美術館
「岡田繁憲日展出品32作品と遊虎・紫音親子3人展」
- 2011年 日展審査員
- 現在 日展会員 新日春会会員 南砺市美術連合副会長 他

編集後記

この度の設立10周年記念式典において、永年功労団体として表彰の栄に浴した。これも一重に、警察等関係機関のご指導ご鞭撻の賜物であり、また、初代理事長をはじめとする関係各位の長年にわたるご尽力のお陰である。

かつて仕えた上司の「世の中には評価される仕事もあるがそうでない仕事もある。たとえ評価されなくとも誰かがやらなければ世の中まわって行かない・・・」という話を聞いたことがある。社会的評価は別として、支援センターとしての与えられたことに真摯に、そして誇りと使命感をもって日々、精進努力したいものである。

公益社団法人

とやま被害者支援センターだより 第23号

平成28年12月31日発行

発行/富山県公安委員会指定犯罪被害者等早期援助団体
公益社団法人とやま被害者支援センター
責任者/事務局長 宮本 春慶
事務局/〒930-0858 富山市牛島町5番7号
TEL: 076-413-7820 FAX: 076-471-7825
E-mail/jimukyoku@toyama-shien.com
ホームページ/http://www.toyama-shien.com

